

28 普天間権現由来

普天間宮そのものは、昔は一つの、単なる一洞窟ですよね。そこでね、沖縄ではね、ウナイ神と。兄弟が仮りに三名いても四名いてもね、一番上の長女ね、女の子が一人、男の子が仮りに四名いるとして五名兄弟ですよね。そしたら、ウナイイキリといってね、女の方をウナイというんですよ。男の方はイキリというんですよ。

そしたらね、この、唐旅^{ちやな}といったらシナですよ。中国。昔は中国によく進貢、冊封といつてよく中国の旅に行きましたよね。進貢船、冊封使とかね。中国との貿易で一生懸命盛んにやりますから。

その時に、中国に行く旅の時に、台風に遭って。そしたら今のこのウナイがね、女の兄弟がね、神になつてよ、夢みたいに、幻みたいによ、

「あつ、今、災難だなあ」というふうに幻で何かを想像するわけよね。そしたら、この親がね、

「ええつ」て合図したらね、

「はあ、もう起こさなければいいのに。今もう少し、この兄貴を、自分の兄弟を救いよつたのに」と、言つてね、

「もうあんたが起こすから、お母さんが起こすから、もうだめさ。これはもう、うちの兄弟がね、今、中国に行くためにね、たいへん嵐に遭って、今難渋しているのに、これ何とか救おうとして、私、幻で今、何していたんだが、もうお母さんが起こしてしまつてもう覚めた」と。それからもう、洗つた髪をそのまましてね、何とかできんもんかといって、この普天間宮に入つて行つてしまつたと。そつで、行方がわからなくなつたということですよ。

その意味で、向こうは旅に行く時には、向こうの神様をよく信仰している。旅のお守りをするということ、向こうの一つの神としての普天間宮のいわれを、そういうふうには私たちは聞いていますからね。

だからそこに、旅に行く時には、刀を持つてね、ここに置いて拜んで。信仰して拜んで行つて。刀忘れてもね、この神様が帰ってくるまで刀がそのままあつた

と。

旅に行く人は、必ず帰ってくるよと、元に戻ってくるよと。そういう意味でね、沖縄ではね、琉球の昔からの何は、床の間にはね、虎の絵を、必ず掛け軸を虎の絵を、猛虎を掛けるんですよ。あれは、『虎は千里を行つてもまた元に帰ってくる』といういわれがあつてね、これにあやかうという意味でね、床の間には掛け軸が、虎の絵を、旅をする家にはね、虎の絵の掛け軸を掛けたとか。ウナイがね、女の兄弟がね、いつも守っているんだと。沖縄の昔からの信仰があるんですよ。

字糸満 野原由宗

類話

字糸満 上原牛蔵、上原亀吉

字北波平 大城清助

字賀数 大城政秀

字豊原 金城力マド、国吉マツ

字伊敷 新垣ヨシ